



ビジネスデザイン研究会 (BD研) 活動報告

ビジネスデザイン研究会 (BD研) は、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 (RBS) の学生有志で運営している研究会です。学生皆の向学心を高め、知的好奇心を刺激する講演会やイベントなどを通じ、継続的な学びの機会を提供します。また、新入生・修了生 (OB、OG) を繋ぐ機会や場作りも積極的に行っていきます。適時、立教会などと連携し、RBS で共に学ぶ楽しみを知った同士の一体感を感じることで RBS のロイヤリティの醸成と、在学の時を超えて互いに高めあうことで、より RBS での学生生活の充実につながることに信じ、理想に掲げて活動しています。

昨年末に16期の先輩方よりBD研運営を引継ぎ、新体制として素晴らしい仲間たちと、新しい一歩を踏み出せたことを大変嬉しく思っています。

早速、先生方や多くの同期の協力のもと精力的に以下活動に取り組みました。

- 昨年末の院生室の大掃除
- 3月のビジネスフォーラム2018
運営支援 (黒木先生、榎谷先生の講義と亀川先生を交えた鼎談)
- 3月に修了した16期の謝恩会サポート
- 新18期生向けの裏履修相談会の開催
- 新入生歓迎会

これから、私たちが先頭に立ち、今までのBD研の伝統を継承しつつ、BD研を作り上げていくことを考えたとき、「もつとできることはないか?」、「何か新しいことがしたいと、あらためてBD研」と真摯に向き合いました。そして、その一つの答えが、私たち2019年度BD研「らしく、学生皆が学ぶ楽しみを通じてRBSでより充実した時間を過ごせるよう「学び」と「変革」という気持ちを込めた「Re:スタート」というテーマでの活動です。

新しい取り組みとして、今までやった事のない新しい企画やイベントにも挑戦しています。さつそく、5月のゴールデンウィークは、親睦を図る目的として、17期、18期合同の有志バーベキュー大会も開催しました。また、夏から秋にかけてイベントなど新しい企画も準備中です。引き続き、2019年度であり、記念すべき令和元年のBD研を、RBSのすべての皆さんと一緒に楽しんでいくつもりで活動していきます。また日頃、BD研に支援、協力してください。先生方、現役生の皆さんへBD研メンバー一同、この場を借りて心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひ致します。

ホスピタリティ研究会

活動紹介

ホスピタリティ研究会は、勉強会（著名人をお呼びしての講演会等）や、フィールドワークなどの活動を通じ、「ホスピタリティ」についての知識や理解を深めることを目的としています。

今年度は、会長の棚倉以下、「ホスピタリティ」が必要とされる職場や職務の経験が豊富なメンバーや、ホスピタリティマネジメントが重要視されるビジネスデザインを構想中の留学生メンバーが、コアメンバーとして各種企画を実施しています。

すでに3回の勉強会やフィールドワークを実施していますので、簡単にレビューさせていただきます。

1月 「がん患者さんが歌う第九 チャリティコンサート」鑑賞

2018年で創立110周年を迎えた「がん研究会」が主催するコンサート。

プロの演奏家とともに、7ヶ月にわたり練習を積まれた、約200名のがん患者さんやご家族、医療従事者の方々が第九を歌い上げられました。

舞台上に立ち、喝采を浴びる喜びは、がん克服に向けての強いモチベーションであり、その運営に尽力されているがん研究会の活動にホスピタリティを体感することのできた内容でした。



3月 がん研究会有明病院 フィールドワーク

全人的医療、つまり手術が目的ではなく、手術を起点に元の生活に戻ることが目的であるとのモットーのもと、チーム医療を行なっているがん研有明病院を見学、看護部長や栄養管理部の先生、医療ツーリズムもご担当される国際センターのお話を伺いました。

患者にとって最良の治療を常に考え、不安を受け止め、寄り添う姿勢が、病院全体に行き渡っていると感じることができました。



4月 東京ステーションホテル総支配人 藤崎 斉氏講演会

東京駅「復原」プロジェクトのスタートから、国際ブランドに伍してラグジュアリーホテルとしての確固たる地位を確立した現在までをお話しいただきました。

短期的な数字を追求しがちなステークホルダーの多い中でのご苦労、属性の違うスタッフをまとめ上げる難しさ、それらを乗り越えることができたのは、Living Heritageという価値の共有であり、スタッフやお客様と価値を「共創」する、ホスピタリティマネジメントがあったことを学びました。



これからも講演会や、フィールドワークを実施していく予定ですので、ご期待ください。また、M1のみなさんと共に継続した活動を進めていきたいと思っております。企画・運営にご興味のある方、ご連絡をお待ちしております。（文責：広報担当 小平）